

令和4年度英語教育改善プラン推進事業【山梨県】

児童生徒の発信力強化のための効果的な指導・評価

学校種間連携

英語担当教師の指導力・英語力の向上(小学校担当教師の指導力向上)

当該地域における英語教育の課題

① 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を評価に活用することに課題がある。

県版CAN-DOリスト(参考例)の周知により、設定は進んだが、CAN-DOリストに基づいてパフォーマンス課題を設定し、目標を児童生徒と共有しながら、指導・評価を行うPDCAサイクルを生かした単元設計での活用について、理解が深まっていない。

② 校種があがるにつれて、言語活動時間や教師の英語使用量が減少する。

小学校の授業で言語活動を行っている割合が高いことや小中高連携の観点から考えれば、中学校・高等学校においても、コミュニケーション中心の言語活動を通して、英語力を向上させる必要がある。英語で授業を行うことが基本となっていない。

③ 求められる英語力を有する教師の割合が低い。

教師の英語力の改善が見られないため、日々の授業において、言語活動を英語で行うことが基本になっていない可能性がある。教師自身が英語力向上に向けた改善意欲をもち、自身の英語力の向上が授業改善につながる認識をもつことが必要である。

【出典】R3英語教育実施状況調査より：本県(全国平均)

<実施内容>

◇児童生徒の発信力強化のための効果的な指導・評価（課題①）

- ・ 県版CAN-DOリストを参考にし、研究指定校が学習到達目標を年間指導計画に反映させた。
- ・ 研究指定校が作成したCAN-DOリストに基づく学習指導案や授業動画を研修会等で活用し、パフォーマンス評価や単元計画等の具体例を示し、指導改善・評価改善を図った。
- ・ 各学校で作成したCAN-DOリストに基づいたパフォーマンス課題や評価基準表を研修会等で共有した。
- ・ 生徒の発信力、英語力が向上したか、研究指定校の中学3年生100名を抽出して外部検定試験を実施した。その分析結果を成果発表会で県内に周知することで、教師が生徒の英語力の見取りの精度を高め、指導改善・評価改善に生かした。【中学校】

◇学校種間連携（課題②）

- ・ 12校の研究指定校提案授業13本をアーカイブ化し、「Yamanashi English Channel」(YEC)で県内外に発信することで「言語活動を中心に据えた授業」や「教師の英語使用量が豊富な授業」における具体的なイメージを、小・中・高等学校を通じて共有した。
(例) ICT活用(学習者用デジタル教科書含む)により「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業
海外の児童生徒やALT等と直接コミュニケーションを行う取組
小学校との接続を踏まえた中学校や高等学校の指導方法の改善・充実が図られた実践 など
- ・ インターネット(アーカイブ)配信のメリットを生かし、地域や校種を超えて提案授業や研究会を視聴する機会を設け、新たな形での小・中・高連携を促進した。
- ・ 「小・中・高連携研修会」で研究指定校の実践を基に、英語による発信力向上のため、各校種で何をどのように指導・評価していくか、系統的な学習をどのように行っていくべきかについて理解を深めた。

◇英語担当教師の指導力・英語力の向上、小学校担当教師の指導力向上（課題③）

- ・ 「自治体連携による英語教育改善のためのアライアンス(山梨県・静岡県・三重県・鹿児島県)」に加わり、各自治体が実施する英語教育に係る研修等にオンラインで参加して、資質・能力の向上を図った。
- ・ 県総合教育センター、教育事務所等との連携により、指導力・英語力向上研修会を実践ベースとし、充実させた。
- ・ 全国的な視野に基づいた指導力向上を図るため「先導的なオンライン研修実証研究事業」への参加者数を、昨年度に比べて増やした。
- ・ 「小・中・高等学校を対象とした英語資格・検定試験の特別受験制度」の活用を、各校種の研修会で周知した。

<成果指標に基づく成果及び検証>

■ 課題①に対する成果検証

【出典】R4英語教育実施状況調査より

- 生徒の英語力の状況
中学校 : CEFR A1 41.1%(+1.8) 取得19.9%(-1.1) 相当21.2%(+2.9)
高等学校 : CEFR A2 48.5%(-0.4) 取得34.5%(-2.4) 相当14.0%(+1.9)
- CAN-DOリストの活用状況
小学校 設定100%(+1.8) 公表51.8%(+30.1) 達成状況把握88.0%(+22.9)
中学校 設定100%(±0) 公表68.4%(+30.9) 達成状況把握79.7%(+5.9)
高等学校 設定100%(±0) 公表75.7%(-12.7) 達成状況把握75.7%(-19.6)
- パフォーマンステストの状況
小学校(S) 98.8%(+1.2) 中学校(S/W) 93.2%(+2.4) 高等学校(S/W) 54.4%(+5.3%)

- R3～R4研究指定校によるCAN-DOリストを活用したパフォーマンス課題やルーブリックの設定、授業づくりの具体を授業動画や指導案等で示したことで、全県での活用に改善が見られた。
- 小中学校において、CAN-DOリストに基づいたパフォーマンステストを実施し、積極的に児童生徒の英語力を見取る教師が増加している。

■ 課題②に対する成果検証

【出典】R4英語教育実施状況調査より

- 言語活動の状況(授業の半分以上の時間が言語活動) 小学校 91.8%(-2.2) 中学校 73.8%(+4.9) 高等学校 59.1%(+9.1)
- 英語担当教師の英語使用状況(教師の発話の半分以上が英語) 中学校 75.5%(+4.8) 高等学校 55.6%(+8.8)
- 小中連携 87.3%(+3.8) 情報交換74.7%(+12.2) 交流58.2%(+9.4) カリキュラム17.7%(+10.2)

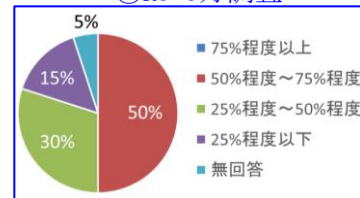
- 各校種で授業動画を作成し、異校種の英語による言語活動を工夫した授業を視聴する機会を設けたことで、中学校、高等学校における言語活動の割合が高くなった。
- 小中連携の数値は上がったが、学校種間連携の質の部分での改善を要する。系統的なカリキュラムによる連携を推進する必要がある。

■ 課題③に対する成果検証

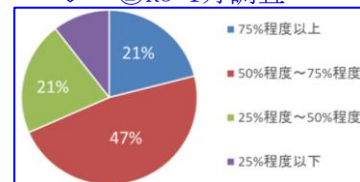
- 英語担当教師の英語力の状況(CEFR B2) 【出典】R4英語教育実施状況調査
小学校 4.7%(+2.7) 中学校 34.0%(+2.0) 高等学校 77.3%(-8.9)
- 小学校指定校英語担当教師の英語使用状況 【出典】研究指定校アンケート(右図)
R5 1月調査 68.0%(+18.0) (※R3 5月調査[本事業開始時]比較)

- 授業動画の配信により、優れた授業を効率的・継続的に視聴する機会を設けたことで、多くの教師が授業の具体を学ぶことができた。
小学校においても、授業における英語の使用量が増加している。
- 小中学校においては、英語担当教師の英語力は横ばいの状態である。

①R3 5月調査



②R5 1月調査



<今後の方向性>

※目標: 求められる英語力を有する生徒の割合50.0%

■ 課題①に対して

CAN-DOリストの活用を生かして、指導と評価の一体化を図り、生徒の英語力向上を図る。

■ 課題②に対して

活発な英語による言語活動を通して、学校種間連携の質を改善し、生徒の英語力向上を図る。

■ 課題③に対して

成果物活用により研修会を充実させ、教師の英語力・指導力を高め、生徒の英語力向上を図る。

成果普及

①Yamanashi English Channel

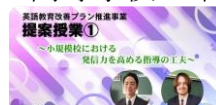
研究指定校提案授業動画13本(小学校6本・中学校5本・高等学校2本)

②研究指定校学習指導案18本

③ワーキンググループ会議・成果発表会資料 等

山梨県教育庁義務教育課 英語教育改善プラン推進事業 HP

<https://www.pref.yamanashi.jp/gimukyo/shido/english/index.html>



※①については、全国の指導主事及び教員への限定公開とするため、以下のパスワードが設定されています。取り扱いにご注意ください。

パスワード yec2023